

ポルトガル月報

2022年9月

(本月報は月末現在の報道などの公開情報を大使館で取りまとめたものです)

在ポルトガル日本国大使館

【主要ニュース】

【内政】★ピザロ新保健大臣が就任／★新型コロナウイルス：警戒状態宣言の終了

【外交】★レベロ・デ・ソウザ大統領、ブラジル独立200周年式典に出席

★フェロ・ロドリゲス前共和国議会議長、安倍元首相の国葬儀に出席

【経済】★政府、物価上昇対策パッケージを閣議決定／★ポルトガル債権の格付けがBBB+からA(Law)に

(上記主要ニュースには以下本文にて★が付されている)

内政

★ピザロ新保健大臣が就任

9月9日、ポルトガル政府は、8月に辞任したマルタ・テミード前保健大臣の後任に、マヌエル・ピザロ新保健大臣を任命した。任命されたピザロ新保健大臣は就任にあたり「ポルトガル国民の健康及び国民保健サービス(SNS)のために働くという強い決意と意思を持ってこの挑戦を受け入れる。」と意気込みを述べた。また、15日には、政府は保健省副大臣及び首相府担当副大臣を新たに任命した。新たに就任した大臣及び副大臣は以下のとおり。

【新大臣及び新副大臣】

保健大臣：マヌエル・ピザロ

保健担当副大臣：リカルド・メストレ

保健促進担当副大臣：マルガリタ・タヴァレス

首相府担当副大臣(新規ポスト)：ルイス・アルヴェス

は、シェーガ党(CH)、左翼連合(BE)、統一民主連合(CDU)及び人と動物と自然の党(PAN)の支持率が増加し、リベラル主導党(IL)及び自由党(Livre)の支持率が減少した。同社による最近の政党別支持率は以下のとおり。

【ポルトガル国内政党支持率推移】※2月～4月数値は未公表

政党	1月	5月	6月	7月	8月	9月
PS	29.0	34.5	34.3	35.1	33.1	30.6
PSD	24.1	18.5	21.7	19.8	22.8	24.7
CH	5.8	7.7	8.2	8.3	8.4	9.2
IL	4.6	6.8	6.9	8.5	7.1	5.2
BE	7.0	5.2	5.2	5.4	5.0	5.2
CDU	4.9	3.6	3.2	2.8	2.2	2.9
PAN	3.5	3.6	2.7	2.2	1.3	2.5
Livre	0.5	1.8	1.2	1.7	1.9	1.8
CDS	0.9	2.9	2.9	2.0	0.7	1.1

■調査期間：9月9日～15日、対象者：ポルトガル本土居住の18歳以上の有権者606人、調査方式：固定及び携帯電話番号を無作為に抽出、回答率：62.1%統計上の誤差：4.0%

■PS=社会党、PSD=社会民主党、CH=シェーガ党、IL=リベラル主導党、BE=左翼連合、CDU=統一民主連合(ポルトガル共産党(PCP)・緑の党(P

●インテルカンパス社の世論調査結果—9月

9月19日、インテルカンパス社は政党支持に関する世論調査の結果を発表した。物価上昇への対応が続く中、与党・社会党(PS)の支持率は30.6%(前月比2.6ポイント減)に減少し、最大野党・社会民主党(PSD)の支持率は24.7%(同1.9ポイント増)と増加した。PSとPSDの支持率の差は5.9ポイント(前月比4.4ポイント減)に縮小した。その他主要政党で

EV)、PAN=人と動物と自然の党、Livres=自由党、CDS=民衆党

★新型コロナウイルス：警戒状態宣言の終了

9月29日、政府は閣議で、9月30日まで宣言されていた警戒状態宣言を更新しない旨決定し、9月30日をもって同宣言が終了した。同宣言の終了に伴い、2020年3月12日から継続していた、市民保護法及び大統領令に基づく新型コロナウイルス感染症に関する各種宣言が終焉した。

外交

●コスタ首相、モザンビークを訪問

9月1日から2日にかけて、コスタ首相はモザンビークを訪問し、フェリペ・ニュシ大統領と会談を行った。会談では二国間関係に加え、多岐にわたる分野について意見が交わされた。コスタ首相は、訪問終了時の会見で、「今回のサミットは、政治、経済、軍事・安全保障全ての面で前向きであった。政治的観点では、両政府間で協力を強化するための政治的意思及び一致が事実として存在する。我々には発展させるべき新たな協力分野があり、また、ポルトガル当局及びモザンビーク当局双方はモザンビークの開発を支援するための協働及び両国・両国国民の伝統的な友情を強化するための共通の意思を有している。」と会談の意義及び更なる関係の強化について述べた。

コスタ首相は、9月1日、ニュシ大統領との二国間首脳会談の他、ポルトガル文化センターの訪問、ビアス・モザンビーク共和国議会議長との会談、ニュシ大統領主催の晩餐会（1回目）に出席し、9月2日はマプト国際見本市の視察、ビジネスフォーラムでの協定の締結、EU軍事訓練ミッションの視察、モザンビーク著名人との昼食会、ポルトガル企業関係者との会談、ニュシ大統領主催の晩餐会（2回目）の予定をこなした。

同訪問には、コスタ首相に加え、ゴメス・クラヴィーニョ外務大臣、カレイラス国防大臣、アントゥーネス農業・食料大臣、アンドレ外務・国際協力担当副大臣、メンドンサ・メンデス税務担当副大臣、ネヴェス経済担当

副大臣も同行した。

★レベロ・デ・ソウザ大統領、ブラジル独立200周年式典に出席

9月6日から9日にかけて、レベロ・デ・ソウザ大統領はブラジル独立200周年記念式典に出席するため、ブラジルを訪問した。レベロ・デ・ソウザ大統領は、同式典への出席の他、ボルソナーロ大統領との会談、ポルトガル語公用語圏諸国共同体（CPLP）各国首脳との昼食会、パシェコ・ブラジル上院議員議長との夕食会、ブラジル下院での基調講演、ブラジリア在住ポルトガル人コミュニティとの歓談といった予定をこなした。ボルソナーロ大統領との会談後、レベロ・デ・ソウザ大統領は「ブラジルの200年の歴史にふさわしく、とても良い会談であった。25万人ものポルトガル在住ブラジル人は人口約1,000万人のポルトガルにおいて非常に大きな地位を占めている。これは、ポルトガル人のブラジル訪問・在住だけでなく、ブラジル人のポルトガル訪問・在住が、両国関係を強化しているという事実である。」とブラジル独立200周年を祝うと共に、今後の二国間関係の更なる発展を願った。

●レベロ・デ・ソウザ大統領、エリザベス二世女王の崩御に弔意を表明

9月8日、レベロ・デ・ソウザ大統領は、英国のエリザベス二世女王の崩御を受け、大統領府HP上で弔意を表明した。レベロ・デ・ソウザ大統領は「ポルトガル及び全てのポルトガル人にとって、1957年及び1985年に実現したエリザベス二世女王陛下の我が国への訪問は、疑いのない敬愛及び敬慕の念と共に、我々一人一人の記憶に残り続けるだろう。私個人にとっては、2016年のロンドン訪問の際、陛下にお目にかかった栄誉を今もなお忘れることができない。ポルトガルと英国を結び、今後も結びつけ、断ち切ることのできない歴史的友情の絆を信じ、改めて衷心より哀悼の意を表すると共に、陛下に対し最高の敬意と恭敬の意を表する。」と、エリザベス二世女王の死を惜しんだ。また、19日には、英国で執り行われた葬儀にも参列した。

●ポルトガル・スペイン2+2会合を実施

9月14日、ゴメス・クラヴィーニョ外務大臣及びカレイラス国防大臣並びにスペインのアルバレス外務・EU・協力大臣及びロブレス国防大臣が、リスボンでポルトガル・スペイン外務及び国防大臣会合（2+2会合）を実施した。同会合は両国共通の戦略的関心事項を検討する、初の2+2形式の会合であり、ロシアによるウクライナ侵攻の影響、南欧周辺諸国の安全保障課題、マドリッドで承認されたNATO戦略概念及びEU戦略コンパスとの相互接続、インド・太平洋戦略が議題に上がった。

ゴメス・クラヴィーニョ大臣は会談後「我々の見解の大きな親和性は二国間関係に留まらず、EU、NATO、そしてより広い国際社会の枠組みにおける、協働能力及び共通の影響力を高めるものである。」と同会合の内容を説明した。また、カレイラス国防大臣は「新たな軍事支援ミッション及びその展開方法、同問題に関するスペイン側見解の理解、欧州平和ファシリティー等の手段及び活用方法についても話す機会があった。我々は国防計画における我々の行動の効果を強化し倍増させるため、会話を継続していく。」と継続した対話の重要性を述べた。

●コスタ首相、国連総会一般討論演説に登壇

9月22日、コスタ首相は国連総会の一般討論演説に登壇した。コスタ首相は演説で「ロシアが紛争を激化させ、核兵器に頼った無責任な脅迫を行う時ではない。ロシアは戦闘をやめ、停戦及び平和に向けた真摯で継続した対話の創設を認めなければならない。ウクライナに対する不当でいわれのない侵略は、国際法、特に国連憲章に明らかに違反している。我々はロシアの侵略を今一度非難し、ポルトガルはウクライナの主権、独立、領土保全に対する支援を強化する。犯した罪に対する罰を免れることが無いよう、独立した、公平で透明性ある調査を要請する。この紛争の解決及び食料危機といった悪影響軽減のため、事務総長を始めとする、国連の全てのシステムにおける努力に敬意を表する。経済・社会的な立場の低い人々の多くがエネルギー・食料危機の影響を最も

受けている。ロシアに適用される然るべき制裁は、直接的にも間接的にも穀物や肥料の支払い、輸送、生産に影響を与えてはならない。」とウクライナ情勢におけるロシアの行動を非難した。また、同問題に加え、国連安全保障理事会改革やポルトガルの2027-2028年安保理非常任理事国立候補などについても言及した。

★フェロ・ロドリゲス前共和国議会議長、安倍元首相の国葬儀に出席

9月23日、大統領府は、安倍晋三元首相の国葬儀に関し、フェロ・ロドリゲス前共和国議会議長に同葬儀への出席を要請した旨発表した。フェロ・ロドリゲス前議長は政府の合意に基づいたレベロ・デ・ソウザ大統領からの要請を受諾し、27日に日本で執り行われた安倍元首相の国葬儀に参列した。

●レベロ・デ・ソウザ大統領、米国カリフォルニア州を訪問

9月23日から29日にかけて、レベロ・デ・ソウザ大統領は米国カリフォルニア州を訪問した。米国カリフォルニア州のポルトガル人コミュニティは世界で最も大きい在外ポルトガル人コミュニティの一つであり、2018年にレベロ・デ・ソウザ大統領が米国東海岸地域のポルトガル人コミュニティを訪問した際に、西海岸への訪問を表明していた。レベロ・デ・ソウザ大統領は、ロサンゼルス、サンディエゴ、サンホアキンバレー、サンフランシスコ・ベイエリアを訪問した。各都市で在外ポルトガル人コミュニティと歓談した他、ポルトガルにルーツを持つジム・コスタ下院議員及びデイヴィッド・ヴァラダオ下院議員との会談、スタンフォード大学での講演、ポルトガル系企業の視察、サンフランシスコ・ジャイアンツでの始球式等を行った。レベロ・デ・ソウザ大統領は最終日に総括として「今回の訪問は忘れられないものとなった。全てのポルトガル人が今回の訪問の重要性を理解している。当地のポルトガル人コミュニティに対し感謝申し上げる。同コミュニティこそがポルトガルそのものであり、ポルトガルにとって不可欠なものである。同コミュニティの重要性を理解していないポルトガ

ル人は一人もいない。」とカリフォルニア州のポルトガル人コミュニティに謝意を示した。

●ポルトガル政府、ロシアによるウクライナ領土の一部「併合」を非難

9月30日、政府は、ロシアによるウクライナの一部地域の「編入」に関し、非難声明を発表した。非難声明では「ポルトガル政府は、この編入は違法であり無効であるとみなす。あらゆる政治的もしくは法的な影響を認めず、今後も決して認めない。ポルトガルは、現在進行中の侵略に対する合法的な自衛の権利と同様、国際的に認められた国境内でのウクライナの主権及び領土保全に対する断固とした支持を維持する。」とロシアの違法性及びウクライナへの支持を表明した。また、ゴメス・クラヴィーニョ外務大臣も「ウクライナの一部領土の編入により、プーチンは国際法の完全なる軽視を証明し続けている。ポルトガルは、ロシアによって違法に占拠されたこの領土の編入を、今、そして今後も認めず、全面的にウクライナと連帯している。」と、ウクライナへの継続した支持を表明した。

経済

★政府、物価上昇対策パッケージを閣議決定

9月5日、政府は、進行中の物価上昇対策として、24億ユーロ規模の政策パッケージを閣議決定した。政府は本年7月までに、物価上昇への対応策としてすでに16億ユーロを投入しており、今次投入で合計額は40億ユーロに到達した。コスタ首相は「ポストコロナやロシアによるウクライナ侵攻により、我々はかつて経験したことのない物価上昇に見舞われている。物価上昇を加速させる要因を排除し、かつ、各家庭の短期的な購買力を維持しながら物価上昇に対応することは容易ではないが、やれることは全てやる必要がある。今後も政府は責任を持って、戦争の影響やインフレへの新たな政策導入の必要性等を評価していくと共に、目下改革が急がれる国民保健サービス（SNS）の強化や国債残高減少等にも対応していく所存である」と物価上昇を含む各種課題への政府の対応を強調した。

●2022年7月貿易統計の発表

9月9日、国立統計院（INE）は2022年7月の貿易取引量の変化に関する数値を発表した。7月の貿易取引量は、前年と比較し、輸出が28.3%、輸入が29.2%増加し、石油及び化学製品を除いた数値では、輸出及び輸入でそれぞれ23.1%、20.7%増加した。貿易赤字は、前年同月から5億400万ユーロ増加し、20億5,800万ユーロとなった。

★ポルトガル債権の格付けがBBB+からA(Law)に

9月9日、格付け会社スタンダード&プアーズはポルトガルの債権をこれまでのBBB+からA(Law)へと引き上げた。同社はポルトガルの予算戦略の堅実性、ポルトガルの堅牢な経済成長、労働市場の回復力、2027年まで継続する投資拡大の見通しを評価した。フェルナンド・メディーナ財務大臣は「政府がとってきた戦略が重要であったことが認識された。格付けの引き上げは国だけでなく企業や家庭が負担する金利の低減にもつながる」と引き上げを喜んだ。

●長期国債の入札

9月14日、ポルトガル国庫公債管理庁（IGCP）は、4年物長期国債を4億7,000万ユーロ（平均利回り1.777%）及び10年物長期国債を7億8,000万ユーロ（平均利回り2.754%）発行した。落札額は4年物長期国債が、9億4,800万ユーロ（応札倍率 2.02倍）、10年物長期国債が13億4,300万ユーロ（応札倍率2.754倍）となった。

●短期国債の入札

9月21日、ポルトガル国庫公債管理庁（IGCP）は、6か月物短期国債を4億4,000万ユーロ（平均利回り1.291%）及び1年物短期国債を8億1,000万ユーロ（平均利回り1.916%）発行した。落札額は、6か月物短期国債が12億8,400万ユーロ（応札倍率 2.92倍）、1年物短期国債が12億5,800万ユーロ（応札倍率1.55倍）となった。

（了）